

私とジャズと オーディオと

ぎんなん新聞
特別号(ぎんなん工楽部便り)

鳥取大学医学部附属病院
脳とこころの医療センター
鳥取県基幹型認知症
疾患医療センター

エッセイ第3回

曾根辻昭宏



寮生活も2年半くらい経ったある日、彼がプレイヤーとスピーカーを買い替えるというので、一緒に行くことに。それを、どのようにして持ち込んだかは、今になっては思い出せません。しかし、今でもハッキリと覚えているのは、彼がダイアトーンのスピーカーとガラードというイギリス製のプレイヤーを下取りに出して、イギリス製のタンノイのレキュタングラーヨークという大型のスピーカーとデンオンのダイレクトドライブ方式のプレイヤーを購入したことです。そして、その時のプレイヤーを私が下取り価格で買い取ったのです。そのプレイヤーは箱を新しくしアームも取り換え、オルトホンのカートリッジを取り付けて貰いました。

私は今でもこのプレイヤーを使っていますが、後に大変な事になって妻に新たにプレイヤーを買って貰うことになりました。それは後々のお話として、話を続けます。

レコードプレイヤーを手に入れた私は、自身のオーディオセットが欲しくなり、給与やボーナスを貯金して資金作りに励みました。1年くらい経って、同期の友人(一番仲の良かった)から彼の冬のボーナス全額を借り、当時は秋葉原のラジオ会館の中に店を出していたテレオンで、米国製の

マッキントッシュのアンプとこれも米国製のJBL-4343というスピーカーを購入したことを、昨日のことのように思い出しています。そして、寮の部屋も寮長の許可を得て彼の部屋の廊下を挟んだ反対側の部屋に移りました。やっと自前のセットを組むことができ、いよいよジャズと向き合うことに。何とかこの文章のタイトルに辿り着きました。



JBL-4343

画像 audio-heritage.jp より



ラジオ会館

画像 : Gigazine より